

《令和七年度暗唱②》

まくらのそうし
枕草子
(第一段)

せいしょうなごん
清少納言

はる 春は あげぼの。

ようよう やうやう しろくなりゆく 山ぎは、

すこし あかりて、

むらさき 紫だちたる 雲の

ほそく たなびきたる

なつ 夏は夜。

つき 月のころは さらなり、

やみ なお ほたる 闇もなほ、 螢のおほく 飛びちがひたる。

また、ただ一つ二つなど、

ほのかに うち光りて行くも をかし。

あめ 雨など降るも をかし。



(はる 春と夏、 2回にわけてちようせんしてもいいです。)

《現代語訳》

春は夜明け（がいい）。

だんだん空が白くなり、

山際がほのかに明るくなって、

紫がかった雲が細くたなびくの。

夏は夜（がいい）。

月夜はもちろん。

闇夜に飛び交うたくさんの蛍。

一、二匹の蛍がほのかに光りながら飛んでいくのも素敵。

雨の夜も素敵。